



Shaker, Bird & Teddy Set

毎回異なる動き（回す、押す、たたく）を通して、原因と結果の関係を体験します。結果を予測する力、手先の細かな動きを調整する力、音や表情を感覚を通して探る活動を支えます。

内容

おもちゃ3つ

対象市場

家庭・教育の両方

■ セットの内容



Magic Shaker

13.5 × 5.5 × 12 cm



Crazy Eyed Bird

9.5 × 9.5 × 15 cm



Roly Poly Teddy Bear

9.5 × 8.5 × 12 cm

■ 子どもが学ぶこと



原因と結果

回す、押す、たたく。3つの違う動作に、3つの確かな結果。予測はここからはじまります。



手先の器用さ

シェイカーを両手で回し、鳥の目を指先で動かし、テディを手のひら全体で押します。



目で追う力

シェイカーの仕切られた空間から別の空間へ流れるビーズや、揺れながら中央に戻るクマなど、目で追いやすいゆっくりとした動きです。



言葉

上、下、入る、出る、もう一度、止まる。鳥の表情が、うれしい、悲しい、びっくりを誘います。



感情リテラシー

鳥の目を動かすと、さまざまな表情が生まれます。お子様はその表情をまねしたり、どんな表情が言葉にしたり、見て笑ったりできます。



社会性

テディを友だちのほうへ押すと、ゆらゆらと戻ってきます。この行ったり来たりする動きを通して、赤ちゃんも順番にやり取りする遊びを楽しめます。

■ テーマ

原因と結果

表情と気持ち

上と下

入れる・出す

音

順番を待つ



Learning through play

■ ひとつのセットで5年間遊べる



■ セットの4つの使い方

ひとりで発見する：6～18か月
マットの上におもちゃ1つ、そばに大人。テディだけでも、赤ちゃんを数分間夢中にさせます。

大人と2人で遊ぶ：9か月以上
注ぐ、揺れる、顔をつくる。大人がお手本を見せ、待って、渡します。

少人数グループ：18か月～3歳
テディを輪になって押し、次に何が起こるか予想します。一度に2、3人で。

常設の遊びコーナー
乳児室の低い棚に、3つとも置きます。準備もいらず、片づけも簡単です。

■ 保育の現場で

小さな部品なし、電池なし。歯固めにも安心

拭いてきれいにできます。シェイカーのビーズは密封されていて、出てきません

おもちゃ3つに棚1つ。子どもが自分で戻せます

3人の子どもに1人1つずつ、またはバスケット1つ

■ 観察のポイント

☐ ビーズが流れる前に、シェイカーの上を見ますか？

☐ 鳥の目を、指と親指で動かせますか？

☐ 人に向けてテディを押していますか？ それとも空間に向けて押すだけですか？

☐ テディを押したあと待ちますか？ それとも押しつづけますか？

☐ お子様は表情をまねできますか？ また、その表情や気持ちを言葉で表せますか？

☐ やる前に、何が起こるか言えますか？

■ 学びの領域

身体の発達

コミュニケーションと言葉

人間関係と心の発達

身近な世界の理解

数学

表現活動

■ セットを広げる

乳児室や1～2歳児の保育室で、原因と結果の関係をさらに体験できるおもちゃです。それぞれ異なる動作によって、予測できる結果が生まれます。Rattles Setと組み合わせれば、0歳児向けの遊びのトレーを充実させられます。

Abacus Rattle

Roller Rattle

Gripper Rattle

Twist and Turn Rattle



1 流れるのを見よう

6~12か月
子ども1人+大人

用意するもの

Magic Shaker。赤ちゃんを支えて座らせるか、仰向けに寝かせて、大人が赤ちゃんの顔の上方からおもちゃを見せます。

進め方

- シェイカーを子どもの目の高さに、立てて持ちます。「見て」と言います。
- ゆっくりひっくり返します。ビーズが流れて、カラカラ鳴ります。「落ちていくよ」と言います。
- 間をおきます。元に戻します。「上」と言って、また流します。
- 子どもの手に持たせます。回すのを手伝い、手を離して、どうするか見ます。

学びのねらい

目で追う力 原因と結果 握る 注意を向ける力

やさしく — ごくゆっくり、もっと近くで回して、動きを追いやすくします。

難しく — 渡して待ちます。助けなしで回しますか？

注目ポイント

視線はビーズを最後まで追い、次に流す前に上へ戻りますか？ 動きを先読みするのは、パターンが身についたしるしです。

2 ゆらゆら戻る

6~15か月
子ども1人+大人

用意するもの

Roly Poly Teddy Bear。平らでかたい面。

進め方

- テディを子どもの前に置きます。そっと押します。「ころん、そして戻る」と言います。
- 待ちます。何もみません。手が出るか見ます。
- お子様の手をそっと導いてテディを押すのを手伝い、その後、手を離します。おなかを押すとピーと音が鳴ります。
- 興味が続くかぎりくり返します。そのたびに、手伝うまでの時間を少しずつ長くします。

学びのねらい

原因と結果 手を伸ばす 予測 粘り強さ

やさしく — 押すとき、子どもの手を自分の手の上に重ねます。

難しく — テディが子どものほうへ揺れるように押し、子どもに止めてもらいます。

注目ポイント

押すことより、待つことが大切です。クマが止まるのを見てから、また押す子は、自分の動作が結果をふたたび起こすと理解しています。

3 表情をつくろう

12か月~3歳
子ども1~2人+大人

用意するもの

Crazy Eyed Bird。鏡があると便利ですが、なくても大丈夫です。

進め方

- 鳥を見せます。目を上に動かします。大人も同じ顔をします。
- お子様に同じ表情をまねてもらいます。その表情を「びっくりした顔だね」と言葉にします。
- もう一度目を動かします。下、横、寄り目。そのたびに気持ちや表情の名前を言います。
- 子どもに目を動かして顔を選んでもらい、大人がまねします。

学びのねらい

手先の器用さ 気持ち まねる 語彙

やさしく — 顔は2つだけ。うれしいとびっくり。

難しく — 「そんな気持ちになるのは、どんなとき？」と尋ねて、答えに耳を傾けます。

注目ポイント

顔をまねるのは模倣で、名前を言うのは感情リテラシーです。前者ができる子、後者をはじめての子を記録しましょう。



4 ひっくり返して

12か月～2歳
子ども1人+大人

用意するもの
Magic Shaker。

進め方

1. 子どもに、両手でシェイカーを持たせます。
2. 「まわして」と言い、お手本として自分の手を空中で回します。
3. 回転は何でもほめましょう。落としたり、何も言わずに返して、もう一度やってみます。
4. 上下をひっくり返せるようになったら、「もう一回」と声をかけ、続けて2回ひっくり返す動作につなげます。

学びのねらい

両手の協応 手首の回転 粘り強さ 順序立て

やさしく — 大人が片端を持ち、子どもがもう一端を回します。

難しく — シェイカーをひっくり返してから、トレーなどの決めた場所に立てて置きます。

注目ポイント

両手を協調させて動かしていますか？ それとも片手で回し、もう片方の手は支えているだけですか？ 両手を同じ方向に動かして回せることは、両手の協応の発達における大切な節目です。

5 友だちに押して

15か月～3歳
子ども2～3人+大人

用意するもの
Roly Poly Teddy Bear。かたい床、子どもどうしを近づけます。

進め方

1. 子どもたちを、ひざがほとんど触れる近さの輪に座らせます。
2. テディを一人の子のほうへ揺れるように押します。その子の名前を言います。
3. その子が次の子に押すのを手伝います。次の名前を言います。
4. 一周させます。ピーと鳴る音を加えます。着いた子がおなかを押します。

学びのねらい

順番を待つ 名前 全身運動 予測

やさしく — 子どもは2人だけ。テディを2人のあいだでまっすぐ押しします。

難しく — 押す前に名前を呼びます。子どもは正しい人に送らなければなりません。

注目ポイント

テディを押す前に、次に受け取るお子様を探していますか？ 名前を呼ばれた友だちに向けてテディを押すことは、協同的な遊びの第一歩です。

6 どうなるかな？

2～3歳
子ども2～4人+大人

用意するもの
おもちゃ3つすべて。それらを覆う布。

進め方

1. おもちゃを1つ見せます。「回したら、押したら、ここを動かしたらどうなるかな？」
2. 答えを待ちます。指さし、音、言葉のどれも受け止めます。
3. 動作をします。予想が合っていたか言います。当たりも外れも、一緒に喜びます。
4. 次のおもちゃは子どもが試す役になり、ほかの子が予想します。

学びのねらい

予測 はじめての科学 語彙 順番を待つ

やさしく — 先に動作を見せて、布で覆い、「何が起こった？」と尋ねます。

難しく — 「もっと強く押したらどうなる？」と尋ね、結果がどう変わるかを試します。

注目ポイント

動作をする前に何が起こるか考えることは、予測です。結果を見て自分の予想を修正するお子様は、科学的な探究につながる考え方を実践しています。

